



## 命を守る 着衣泳 ～ういてまで～

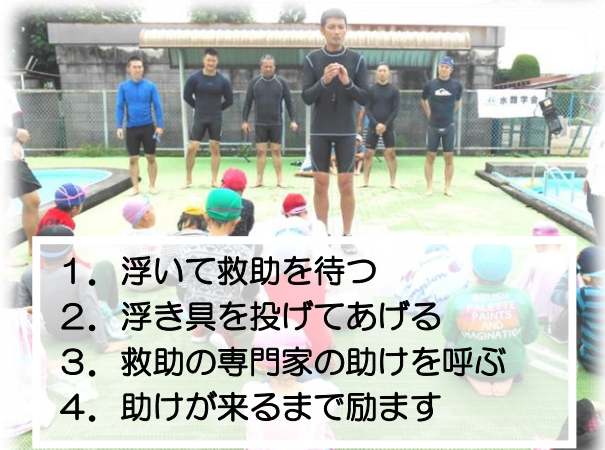
uitemate 水難学会

7月17日(水)今年も、水難学会の3人の指導員と3人のボランティアの方々の指導のもと、着衣泳講習をおこないました。はじめに、着衣のまま水に落ちてしまったらどうしたらよいか、「救助連鎖(チェーン・オブ・サバイバル)」について、次のような寸劇を通して教えてくれました。

- 友達数人が川の近くで遊んでいたところ誤って一人の友達が川の中に落ちてしまった。
- 落ちてしまった人は、背浮きで待つ。
- 陸にいる人は、水に浮く物を投げてそれにつかまってじっと待つように指示する。
- 通行人などに119番通報をお願いする。
- 助けが来るまで、励ます。
- 消防の救助隊が来て救助する。

この後、水に浮かぶ物(ランドセル、ペットボトル等)を抱えて仰向けで浮く練習をしました。また、何も持たずに浮くことで自分の体や着衣にも浮力があることを感じたり、浮いているときに水から手を出してしまうと沈んでしまうことなどを体験しました。

水難学会の指導員・協力者の方々には、毎年のご指導に心から感謝します。



1. 浮いて救助を待つ
2. 浮き具を投げてあげる
3. 救助の専門家の助けを呼ぶ
4. 助けが来るまで励ます



## 命を守る 避難訓練・引き渡し訓練

8月30日(金)に避難訓練・引き渡し訓練を行いました。大きな揺れが発生(想定)、子どもたちは、ヘルメットをかぶり、机の下にもぐり、揺れがおさまるのを待ちました。その後、「大井町にて震度5弱であったことを確認(想定)」したため、确实・安全に児童を各家庭に引き渡しを行いました。

近年、東海地震は単独の地震ではなく東南海地震や南海トラフ地震の一部であり、連動する可能性があると言われていています。そのため、気象庁では、平成29年11月から、「東海地震に関連する情報」の発表をやめ、新たに「南海トラフ地震に関連する情報」の発表(定例・臨時)とその対応を行うことになりました。南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった旨の「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」を見聞きしたときは、日頃からの地震への備えを再確認するようにと、気象庁では呼びかけています。つまり、この「南海トラフに関連する情報(臨時)」の発表は、日頃の備えを再確認する必要はあるものの、直ちに、児童を保護者のもとに引き渡すという状況ではありません。ですから、大きな地震発生の予知情報等により、緊急に児童の引き渡しを行うことはありません。

しかし、震度5弱以上の地震では、これまでと同様に保護者へ児童を引き渡します。ですから、万が一、大井町に震度5弱以上の地震があった場合は、学校等からの連絡がなくとも、児童の引き取りに向かってくださいようお願いいたします。その際は、保護者のみなさま自身の安全を考慮されるようお願いいたします。



# 自然の中で仲間と過ごした1泊2日～5年 林間学校～

7月10日(水)、11日(木)で、県立足柄ふれあいの村で、5年生が林間学校を行いました。学校で開校式を行い目的地に向かって出発するとき、6年生がかけつけてきて一人一人「相タッチ」をして見送りました。

村内の散策、火起こし体験・野外炊事、キャンドルファイヤー、ナイトハイク等、楽しく過ごしました。夕飯は野外炊事でカレーライスを作りました。野外炊事の前には、「火起こし体験」をしました。どのグループも相談・協力し見事に火を起こすことができましたようです。みんなで苦労し、楽しく作ったカレーライスも上手にできました。きっと忘れられない「おいしさ」を味わうことができたことでしょう。

夜には、キャンドルファイヤーを行いました。各グループで考えてきたゲームをみんなで楽しみました。この場を盛り上げようと、数人の先生方が応援に来てくれました。先生方にとっても、とても楽しい一時となったと思います。それは、子どもたち一人一人が、この場が楽しい場になるように、協力しいたわり合う姿がたくさん見られたからです。

ゲームの仕方をみんなが分かるように一生懸命に説明する子どもと、それをわかろうとして聞く子どもたち。わかろうとしているのは、話している友達への相づちをうったり、曖昧なところは問いかけて確かめたりする姿から伝わってきました。ゲームの仕方を共に理解し合うと、ルールに則り楽しく行う姿にも友達を大切にする様子がありました。

「罰ゲーム」は、やる人が抵抗なく無理のない内容で、やった後には、みんなで温かい拍手を送ってまいりました。

このような協力し合い、いたわり合っって楽しむ子どもたちにふれていると、とても幸せな気分になります。



# 夏季休業中の職員研修 ～ 地域の宝もの 自然・文化・人～

夏季休業中を利用して、ICT・プログラミング・不祥事防止・児童指導・体育実技・人権教育」など、様々な職員研修をしました。そのうち、7月23日(火)には、地域のことを教職員が学び、地域学習の素材を開発するために「地域学習研修会」を行いました。

「相和地域の自然と文化」とのテーマで、小宮真一郎さん(中屋敷)をお招きし、水源と鎮守の守が残る里山(シノキ ネットワーク)について講話をいただき、シノキは命の水を育ててきたことなどを教えてもらいました。また、PTA副会長の鈴木裕也さん(柳)をお招きし、相和地域の竹を利用した「竹風鈴」作りを体験させてもらいました。

お二人とも、相和地域の活性化を願い実際に様々な活動をされており、その熱意や思いにふれ、相和地域の宝は、自然であり、文化であり、そして、人とのつながりであることを職員全員が感じました。地域の素材を生かした教育活動を進めてまいります。その折は、どうぞよろしくお願いいたします。

